

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾病

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」および「感染症発生動向調査実施要綱」に指定している全数把握対象疾患および五類定点把握対象 28 疾患のほかに、都単独に不明発しん症と MCLS（川崎病）及び性感染症として膺トリコモナス症と梅毒様疾患を調査対象としている。また、厚生労働省令で定める 2 疑似症を疑似症サーベイランス対象としている。（第 3 章別表 1 参照）

(2) 定点医療機関

2008 年は、都職共済青山病院閉院に伴い基幹定点が 1 か所減少したため、小児科定点 150、内科定点 140、眼科定点 39、性感染症定点 55、基幹定点 24、合計 408 定点から患者情報を収集した。一方、病原体定点は、小児科病原体定点が 2 か所追加指定され、のべ 56 医療機関が患者定点と兼ねている。なお、小児科定点と内科定点はインフルエンザ定点としても機能している。さらに、2008 年 7 月より開始した疑似症サーベイランスでは、インフルエンザ定点 290 と疑似症単独定点 26 から情報を収集した。

表 1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2009 年 12 月 31 日現在)

| 定点種別（疾病数） | 患者定点 | 病原体定点 |
|------------|------|-------|
| | 定点数 | 定点数 |
| 小児科定点（14） | 150 | 15 |
| 内科定点（1） | 140 | 14 |
| 眼科定点（2） | 39 | 4 |
| 基幹定点（7） | 24 | 19 |
| 性感染症定点（6） | 55 | 4 |
| 疑似症単独定点（2） | 26 | |
| 合計 | 434 | 56 |

(3) 運営方法

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症（STI）定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月単位となっている。

週単位で報告される疾病については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者に関して、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

月単位で報告される月報告疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が患者の年齢、検体採取部位を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

疑似症サーベイランスについては、報告基準を満たす患者が発生した場合には、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し、直ちに保健所に FAX で送付する（疑似症単独定点については、疑似症サーベ

イランスシステムへ直接入力する)。なお、発生がない場合であっても、その旨、週単位で報告する。

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。基幹地方感染症情報センター(健康安全研究センター疫学情報室の機能)は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

(4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>)で公開され、保健所を通じて定点医療機関へ提供されると共に、都民にも広く情報還元が図られている。

また、毎月1回、定例(第3木曜日)で感染症予防検討委員会が開催され、前月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

2 本年(2009年)の概況

(1) 一類、二類、三類、四類、五類(全数把握対象)、新型インフルエンザ等感染症

2009年(平成21年)4月28日、メキシコ、アメリカに端を発した豚由来のインフルエンザが、新型インフルエンザ等感染症の新型インフルエンザに位置づけられた。これにより、4月28日から7月23日までは新型インフルエンザと診断された患者及び疑似症患者の全員、7月24日から8月24日までは新型インフルエンザの集団発生に関連した患者及び疑似症患者が届出られた。

ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

イ 二類感染症

二類感染症のうち《急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ(H5N1)》の届出はなかった。結核の動向については、別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計391件の届出があった。

コレラは3件届出があった。全てO1エルトル小川で、推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢は48件届出があった。ディセンテリー菌1件、フレキシネル菌11件、ソンネ菌36件である。推定感染地は国内11件、国外37件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は317件届出があった。O157VT1が11件、O157VT2が73件、O157VT1VT2が133件、O26VT1が18件、O145VT1が6件、O145VT2が1件、O103VT1が3件、O121VT2が3件、O111VT2が2件、O165VT2が2件、その他が65件である。症状別では、患者213人(うちHUS7人)、無症状病原体保有者103人であった。

腸チフスは11件届出があった。推定感染地は国内2件、国外9件である。

パラチフスは12件届出があった。推定感染地は国内1件、国外11件である。